

「ともにチャレンジ！」した校内音楽祭 ～終日ホールにさわやかな空気が漂いました～



10月19日(木)に開催した校内音楽祭におきましては、ご多用の中、たくさんの保護者の方々にご観覧をいただきました。本当にありがとうございました。

この学校便りのタイトル部分にあるのが、本校美術部員の制作による横断幕です。今回の校内音楽祭のテーマは「創声(そうせい)」。この日すべての学級に、心をこめて学級の一体感を醸し出しながら歌う姿が見られ、まさに「声を創る」校内音楽祭、「声で創る」校内音楽祭となり、テーマを実現できたものと感じています。

しかし、これまでの過程では、練習がうまくいかなかったり、意見が食い違ったりしてあつれきが生じる場面もありました。しかし、改善策を話し合い、目標を具体的に立て直しながら一つの目標に向かっていくという成長の軌跡がどの学級からも感じられました。

また、本番直前の3日間の練習の追い込み方、雰囲気の上り上がり方、そして歌声の成長ぶりは圧巻で、子どもたちの底力には驚かされました。仲間とともに1つのものを作り上げる喜びを感じながら各学級の絆が「創成(そうせい)」され、綾川中学校の新たな合唱文化が着々と根付きつつあると実感しました。

今後、1年生は屋島集団宿泊学習、2年生は職場体験学習、3年生は進路決定とそれぞれの新たな目標に向かって突き進んでいきます。それぞれを一人で乗り越えるのではなく、常に仲間と苦楽をともにしながら乗り越えていくものと期待しています。

校内音楽祭を通して、仲間の大切さやありがたさを肌で感じた子どもたち。更なる成長を遂げるべく、これからも「ともにチャレンジ！」してほしいと願っています。

【この日見られた心地よい風景】

合唱が素晴らしかっただけでなく、随所に綾川中生らしい素敵な姿が見られました。

○ ホールに響き渡る心地よい拍手

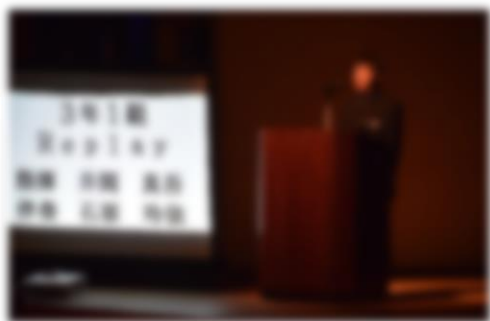
終日、ホール内に響く心地よい拍手に心が癒されました。ふざけたような拍手、なげやりな拍手等は一切ありませんでした。この拍手の様子に、子どもたちの「素直な心」や「心から演奏を称える気持ち」が表れていると感じました。

○ 演奏中のフロアの子どもの聴く態度

私の前に座っていた2年生(AM)と3年生(PM)には演奏中、微動だにしない姿が終始見られました。演奏のすばらしさに聞き入っていたと思われそうですが、決してそれだけではないと感じました。それは、日頃から「聞く」ことを大切にしている習慣からだと考えます。

○ 成績発表時の盛り上がりや悔しさの表現

私は、よい結果を収めることだけに価値があるとは思っていません。そして、校内音楽祭で言えば、成績発表で結果に応じて感情を表現する瞬間って大切だと考えています。喜びを爆発させる学級、それを羨ましそうに見つめる学級、ひとしきり悔しがる学級、どの反応も正常な心の動きであり、どれも学びとなります。勝って学ぶこともあり、負けて学ぶこともあります。大切なのは「心が動く」ことです。「心が動く」ほど努力したことは極めて尊いことです。



プログラムの原稿の写真